

協働のまちづくり調査事業

地域の課題解決に取り組んでいくための持続可能な仕組みとは何か、地域と行政との協働のあり方はどうあるべきか、10年後、20年後を見据えた「みらい」を考える事業です。

広報よさの3月号(No181号)で、

本事業の目的や趣旨を掲載しています。ぜひ、併せてご覧ください。



町公式HP



第1回学習会「曳山祭の発展継承」

地域支援員意見交換会を開催

みんなが地域の担い手に ～人材に注目した 協働の社会を目指して～

3月17日、野田川わーくぱるで協働のまちづくり調査事業地域支援員意見交換会を開催しました。

福知山公立大学地域経営学部の杉岡秀紀准教授による「協働のまちづくりと地域づくり」をテーマにした講義から、地域の中で地域のみらいを議論する重要性と必要性について学びました。

また、地域支援員から各地区での取り組みが紹介され、「人口減少社会と地域創生」「公共とは何か」「市民参加と地域協働」「関係人口と地域コミュニティ」の観点を踏まえながら、地域に合った地域づくりとは何かについて参加者全員で意見交換を行い、同じ思いを持つ者同士で交流を深めました。



令和2年度は「三河内を知ること」を目標として、区民が講師となり4回にわたって三河内曳山祭の発展継承、奥山区有林散策、丹後農産物の通について学習。さらに学習



第2回学習会「奥山区有林散策」

地域を考える意識 が芽生える

持続可能な三河内区を実現するためには、区内の人間関係を豊かにし、さまざまな組織で活躍する人材を育成することを目的に「三河内の将来像を考える会」を16名で発足し、

持続可能な三河内区の実現を目指して

このような課題を解決し、

取り組みが始まっています。

冊子「三河内を知る」が作成されました。

いたい。
令和4年度には地域で活躍する人材を育成する組織として「三河内未来塾」の設立を目指しており、持続可能な三河内区を目指す取り組みが本格化しています」と話す地域支援員の千賀諭さん。

参加者からは「生まれ育った三河内を知る機会をもらい、何も知らないと痛感した」「知らないことを知る貴重な機会となつた」などの感想があり、地域を考える意識が芽生え始めています。

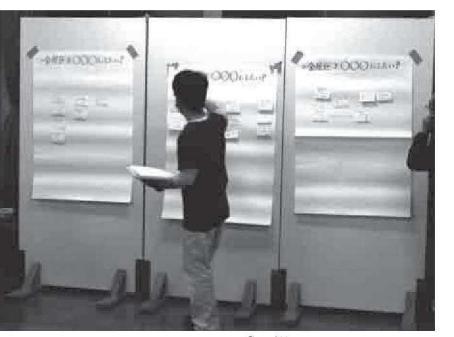


地域支援員の千賀さん（左）

協 働 の まちづくり

地域のみらいを考える 地域の取り組み（前編）

令和2年度から4区（金屋区・三河内区・岩屋区・四辻区）でスタートした協働のまちづくり調査事業。安全・安心な暮らしと住みやすい地域づくりに向けて、これからの地域のあり方や必要な地域活動について地域の中で話し合いが進められています。今月号では、金屋区と三河内区の取り組みを紹介します。



ワークショップの様子

このような中、「金屋地域づくり推進委員会」が組織され、金屋区が目指すべき姿《①若者が戻りたいと思える地域 ②高齢者もいきいき暮らせる地域 ③区民同

かがやけ金屋人

化に伴い、区を担う人材不足など、特に「人」に関する課題が現れており、区の方を考へる時期にきています。

金屋区では人口減少・高齢化に伴い、区を担う人材不足など、特に「人」に関する課題が現れており、区の方を考へる時期にきています。

金屋区の「みらい」 を話し合う

士の交流がある地域『④人が人を呼ぶ好循環を生み出す地域』を具現化し、将来にわたり安心して暮らせる金屋区を目指した取り組みが始まっています。

「この取り組みを多くの方に知りたいことで、同じような考え方を持つ人の輪がありました。

「この取り組みを多くの方に知りたいことで、同じような考え方を持つ人の輪がありました。



金屋区の「みらい」について区民で話し合い

た19人で構成。初会合の自己紹介では、メンバーそれぞれが思いを語り、金屋区を良くしていきたいとの意気込みや熱意があふれる中、ミーティング名を「かがやけ金屋人」と名づけスタートしました。

「金屋区が目指すべき姿」の3つのキーワードとして、「場所」「つながり・交流」「若者」が上がり、「場所」にテーマを絞ったワークショップで

広がつていけば、必ずより良い区になつていくと思います」と話す地域支援員の谷川邦雄さん。

今後は、令和2年7月に高校生以上を対象に実施した区民アンケート（回答率約67%）から得られた区民の思いや声

地域で活躍する 人材を育成する



地域支援員の谷川さんは、会議でのファシリテーターも務められています

を踏まえながら、金屋地域のみらいが話し合われる予定です。